

国外実態調査報告書

テーマ : 韓国におけるキャッシュレス決済の実情についての実態調査
ゼミ名 : 竹田 信夫ゼミ
調査日 : 2023年2月7日(火)～2月10日(金)
調査先 : 【韓国】ソウル市
授業科目名 : 演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅲ・Ⅳ
参加学生数 : 3名(3年生)、1名(4年生)

調査の趣旨(目的)

本調査の目的はソウル市を中心に韓国のITの導入状況を調査することであり、具体的には以下のとおりである。

1. 韓国は香港、東京と並んで世界で最も早くキャッシュレス決済を導入した国であるが、日本と異なり多様なサービスを短時間で推し進め現在キャッシュレス率9割を超えるとまで言われている。その実態とそれを可能にした理由について調査する。
2. 韓国は日本と並んでいち早くTypeAによる地下鉄等のキャッシュレス化を進めたが、日本のフェリカが日本でしか普及しなかったのに対してTypeAは世界的に普及している。開始から20年近くを経て韓国ではTypeAの世界的な普及とその進化に対してどのように対応しているのか調査する。
3. 韓国は世界で最も早く5G通信を導入した国であるが、どのように日本と異なっているのか、またなぜそのようなことになったのか調査する。

調査結果

1. について、韓国で行われているキャッシュレス決済の多くは日本で最も使われているPAYPAYのプリペイド方式のQRコード決済ではなくクレジット由来の決済であることが実態調査の結果明らかになった。

その背景としてディスカッションが行われ、韓国は1990年代末期から2000年代初頭にかけて急速なクレジットカードの普及がなされたことが根底にあり、またその理由として1997-98年のアジア経済危機の影響により家計部門の大幅な収入の低下があることが示された。また、プリペイド方式ではなく、クレジットカードが基礎となる代金決済となっていることはマクロ的な家計の負債残高が長期にわたって高い比率で推移していることからも裏付けられるとする考えが示された。他方韓国の民族的なパーソナリティからクレジットカード中心の決済からQRコードを含めたキャッシュレス化を進めるという国家的方針に対して企業、国民が一体して行動するという民族的なパーソナリティの存在についての指摘もあった。

巷間言われるような独自性、利便性の高いサービス、アプリの存在についてはその内容が必ずしも日本のPAYPAYなどの戦国時代さながらのシェア争いによって提供されているものと本質的に大きく異なるものではないとの指摘もあった。

2. については、TypeA とフェリカについてさほど使い勝手が変わらないことが確認されたが、地下鉄のサービス時期によって改札の物理的形狀、方式が異なることが指摘され、特に初期に整備された地下鉄の改札については日本で通常使われているゲート方式ではなく、3次元バー方式であるとの調査結果が報告された。このため導入初期に際しては改札スピードはカタログスペックの通り、TypeA はフェリカよりもかなり低かったことが想定された。他方数年後に整備された路線、駅においてゲート方式が採用されていることからスピードのデメリットはその後数年で解消されていることがうかがえ、この時点でフェリカのアドバンテージは相当低くなっているとの見方も示された。

現状でフェリカが21世紀になってから全く交通系の国際的な導入がなされていないことはこの見方を裏付けるものであるとの主張もなされた。

また、この調査に関連して海外旅行者用に発行されている WOWPASS についての調査結果についても議論が行われ、issuer の異なる2枚のカードを一枚のカードとしていること、外貨との交換レートがクレジットカードや銀行のレートなどに比して優良であることから、キャッシュレス化を進めるに際して外国人旅行者の不便を軽減する強い意思が働いているとの見方が示された。

3. については5Gの普及が著しいことは確認できたが、通信速度等からではミリ波の普及等具体的な技術内容については深く確認することはできなかった。